

同窓生シリーズ⑤



フリーアナウンサー
三上彩子さん(S41年卒)

お茶の水女子大学理学部卒業
46年 フジテレビ入社
「ピンポンパン」のお姉さん
「小川宏ショー」のアシスタント
53年 フジテレビ退社 フリーアナへ
現在 朝日カルチャースクール講師
エッセイスト
本校同期の伊藤邦成氏(医師)との間に女児1人

女子はお客さんだった。今思うと青
女子生徒は小さいのだけれど……。
お客さまと呼ぶの暗殺事件が起こった
代に本校で学んだが、社会に対する
ばれた三上さん、男子に人を感じたものでした。
んは、男子に私たち、現実を直視す
という気持ちと灰色の受験競争を強
を核に高校生とやらで、ゆりかごから
活を一杯謳歌されたそう
です。まずその当時のこと
からお話をしていただき
ました。
新宿高校に入学して数
日後に上級の男子生徒か
ら手紙が来たんです。内
容は今の世の中を憂えた
ものでした。今思うと青
未来を真剣に考えており
なるという意識が強く、
花嫁修業をしながら勉
強し、いい相手を見つけ
て結婚ということはほと
んど考えませんでした。
男子生徒が目撃していたよ
うです。大学で化学を専
攻したのも男の人を意識
してのことだったわけで
す。社会に出るとあらゆ
る面であらゆる男の人を優れてい
ることを思い知るわけで
すが、でも女子生徒は、
除け者にされたり無視さ
れたりする「何よ、」
大を指している生徒は、
時の新宿高校の男子は東
部の存在でしたが、み
んな大学に入って何かに
した。

結婚より就職を考えた
自分の進路は高校も大学
も自分で決めました。大学
を選ぶときは「ご主人とは、小川宏シ
ョーのアシスタント時代
に、とあるレストラんで
いう大学に行けばこうい
う仕事に就けると、それ
は一生懸命考えました。
自分のことだから当然で
すが。
親は勉強しなさいと一
切言わなかったけれど、
社会性を身につけるよう
には教えられました。
部活はバレーボール部
で東洋の魔女の回転レシ
ーブに刺激され、すり傷
だらけになりながら戦っ
たゼロ勝の記録は今も輝
いています。文化祭の後
のフォークダンスでは、
女子は四分の一の強みで
大モテでした。また、館
山に水泳に行ったこと、
第三グラウンドと呼んでい
た新宿御苑で誘い合っ
て二年・三年と同じク
ラスだった皆と結束して
獲得した校長杯、新宿高
校には懐かしい思い出が
一杯あります。
「ご主人とは、小川宏シ
ョーのアシスタント時代
に、とあるレストラんで
偶然出会い、運命的
なものを感じて「私か
ら手紙をしたためまし
た」とのことです。団
塊の世代の女性である
三上さんは、受験、就
職、結婚、育児、転職
と次々と変わる生活に
苦しみながらも見事に
切り抜けられ、まことに
力強いものを感じさ
せます。」
一人一人が歴史の担
い手
最後に在校生へのメ
ッセージとして、新宿
高校の自由の雰囲気
を残しておいてほしいと
思います。学校には歴
史があり、自分たちも
その歴史の一つになる
のです。これは大切な
んだと思っしてほしい。
私たちも六中時代の話
をよく先生から聞いて
いました。卒業してみ
ると随所にその影響が
現われ、歴史の大切さ
を強く感じます。